

冊子版

全68話から
選りすぐりの
6話を掲載

建設業で本当にあった 心温まる物語Ⅱ

～人と建設とのキズナ～

編・著 降旗 達生

約400人の建設業従事者、建設業と関係のあった方より収集した『心温まる物語』を、68編に厳選、書籍化したし



子どもたちに建設業への夢を与える

中高大学生に建設業の実績、すばらしさを伝えるための副読本として、建設会社が新卒生を募集する際の採用ツールとしてご利用いただいています。

特定非営利活動法人建設経営者倶楽部KKC

「人と建設との温かいキズナ」

私がまだ、駆け出しの技術屋のころ、ベテランの重機オペレーターのWさんという方と何回か仕事をしました。Wさんはとても腕がよく、ブルドーザーに乗れば、目測でも仕上げ高さに対し二〜三センチの誤差で削土（さくど）し、またバックホウ（掘削機械）に乗れば床付け（とこづけ）（地盤を平らにすること）を荒らさずに、表面の小石もきれいにすくい取ることができました。そんなWさんでしたが、話す言葉は荒っぽく、私はいつも怒られてばかりでした。

「そんな丁張り（ちようはり）（土の形状を木材で示す測量の方法）じゃ、仕事ができねえ」と言って、せっかく掛けた丁張りをバックホウのバケツで壊されたりもしました。初心者の技術屋だったので、熟練工のWさんからすれば、歯がゆいことが多かったのだと思います。

しばらくして、突然Wさんが現場に来なくなりました。聞くところによる

と、病気で入院したということでした。それから二、三週間ほどして、お見舞いにいこうかと考えていたところ、Wさんが急逝（きゅうせい）したとの連絡がきました。病気はガンでした。

現場の都合で葬儀には出られなかったのですが、四十九日にWさん宅におうかがいすると、奥様から、

「若いのに現場で一所懸命頑張っている奴がいる。仕事はまだ一人前ではないが、今の頑張りを続ければ、きっといい技術屋になる。だから自分の子どもだと思って、毎日ビシバシしごいているんだ」と、生前話をしていたと聞きました。

それを聞くと、涙をこらえることができませんでした。あの遠慮のない厳しい言葉も、私への期待の裏返しだったのです。

あれから二十年近く経った今も、まだまだWさんに胸を張れるような技術屋ではありませんが、あの頃の真剣さを忘れないでいようと、肝に銘じています。

「家族とともに造る建築物」

高校卒業後、住宅メーカーの下請け会社で働き始めました。今はどの現場でも施主の写真が貼ってあります。家族写真、夫婦の写真、祖父母も含めた大所帯の写真もあれば、おなかの大きい奥さんの写真もあります。

しかし私は、そんな幸せな家庭を見るのが嫌でした。

私が小学生の時に、母が事故で亡くなりました。それから男手ひとつで育てられました。が、不器用な父親だけの家庭では当然のように会話はなくなり、いつしか家にも帰らなくなって、父とは疎遠になりました。

先日、父が倒れたと聞いても特に動揺はしませんでした。見舞いに行くと、病室では意識のない父親が横たわっており、数日後、あっさり亡くなりました。

私は父の遺品整理のために数年ぶりに実家に帰りました。誰もいないドアを開けたり、代わり映えのしない部屋に足を踏み入れたりした後、最後に父

の部屋に行ってみました。

本棚の奥から古い書類の束が出てきました。

「家造提案シート」と書かれた書類は、注文住宅を建てるときの相談内容や、お客さんの要望をまとめていく設計書でした。仕事で何度も見たことがあります。実家も、注文住宅だったので。

何気なく開いた一ページ目に幼いころの自分がいました。

「将来、息子と遊べるように庭は広め」

「子供部屋の天井は、壁紙は……」

「自分たちがリフォームしやすいように……」

後は、涙ぐんで読めませんでした。家族の理想の家がそこにありました。いつからこうなったのか。いつから理想がなくなってしまったのか。悔やみながらも、両親が理想を叶えられなかった分、これからは自分がお客様の理想の家を造り上げていきたい、という思いが強くなりました。

今では、私は仕事前に必ず写真に語りかけています。

「理想の家を楽しみにしててください」と。

「建設技術者のエンジニア魂」

私がダム建設の技術指導で、ミャンマーに行った時のことです。

ミャンマーは近年の経済成長にともない、電力不足が深刻化しており、水力発電用のダムを数多く計画建設しています。現地の作業員のスキルは日本の五十年前程度でしょうか。

施工技術だけでなく、安全に対する技術も日本の感覚とはかけ離れたものです。

かろうじてヘルメットはかぶっているものの、素手、半袖のTシャツにジーンズ、何人かの作業員は素手で作業をしています。

日本と比較し、文化と環境が大きく異なることは十分理解していただのですが、日ごろ日本で仕事をしている私には、受け入れがたい面もありました。

そこで私は、施工技術を指導するだけでなく、安全についても指導助言することとしました。

すると彼らは「わかった」と、返事はしますがなかなか実行しません。

そのため、もつと言い聞かせるように、「一人作業員が欠けただけで、翌日の作業に支障がある。現場の作業員は、私も現場の職長も、末端の作業員含めてファミリーだ」と、説明し、納得させて作業を進めました。

帰国の日、現場の作業責任者との帰路（きろ）、彼はこう言いました。

「あなたと一緒に仕事ができてよかった。とても親身になって助言してくれました。私たちはファミリーだ」

言葉は通じにくくても、心は通じていました。このことは私の一生の思い出になるでしょう。



「建設技能者の匠の技」

まだ建設会社に入社する以前の話です。

当時学生だった私は、友人の父親が建設会社を経営しており、木造一軒家を解体する現場に勉強がてらアルバイトをさせてもらうことになりました。その現場は友人の父親が現場監督と解体作業をしており、手伝いさんに混ざって私も一緒に解体作業をおこないました。

初めての解体現場で何をしていいのかわからない私は、友人に言われるがままに便所の壁タイルを大ハンマーでがむしやりに解体していました。

それを見ていた友人の父親に、「ここをたたくと一気に壊れるよ。気を付けてたたいてごらん」と言ってもらったので、そこをたたくと、さっきまでいくらたたいても表面しか壊れなかったタイルが、ガサガサ！ と簡単に壊れました。

「さすがやなあ、コツがわかってはるわ」

と感心して見ていると、友人の父親は、ひとつひとつ解体する前に考えている様子が見受けられました。がむしやらに壊すのではなく、最小限の力で手際よく解体していく様子は、木造住宅を建てた経験があり熟知している人物なのだと、よくわかりました。

息子である友人も見よう見まねで同じように解体しますが、結果は私と同じで表面しか壊れませんでした。

本職の技を見た一面でした。

解体しながら私たちにも気遣いされ、けがのないように私たちの様子を常に視野に入れながら作業されていました。良い経験をさせていただきありがとうございます。



「土木の工事は、人々の命を守っている」

私の仕事は、高速道路の維持・修繕をすることです。

ひび割れている箇所があれば、舗装の表面を削り、アスファルトコンクリートの打ち替えをしたり、側溝や集水桝の清掃をしたり、落下物があれば拾いに行くなど、仕事の幅が広いです。

一見同じような現場であっても、その都度工種が変わることがあり、まったく同じということがないので毎回が良い勉強になります。路面補修やガードレールの取り替えなどでは、基本があってもそのとおりににはできない場合もあるのです、柔軟な考えが必要なのです。

現場の方はみな、いい意味で、いかに楽をするかを考えています。現場経験がまったくない私は、現場の方々の柔軟さには驚かされっぱなしでした。

「物を造ることとは違い、元々あるものを維持・修繕することは、造ることより難しい。俺たちの仕事は、ゼロから物を造るのではなく、元々あるもの

が劣化した状態（マイナス）から、元にあった状態（ゼロ）に戻るのが仕事なのだ」

と、先輩から教えてもらいました。私はこの言葉に感銘（かんめい）を受けました。

ゼロから物を造るのは設計図通りにやればいいが、ひび割れなどをおこし補修する場合には、ひび割れの原因を見つけ、その後どのように補修するかを考えなくてはならず、また、その後も同じ箇所がひび割れなどを起こさないような対策も考えなければならぬので、たいへん難しいです。

物を造っているわけではないので、あまり人の目にはつかないかもしれませんが、目立たない仕事かもしれない。しかし、縁の下の力持ちという言葉にもあるとおり、目立たないけれど、陰で仕事をする今の仕事に誇りを持ち、高速道路のスペシャリストになれるよう、日々がんばっていききたいと思えます。

「建築の仕事は、人々の生活を支えている」

二年前の秋、当時私が担当した現場は十階建四十戸というマンションの大規模修繕工事でした。着工が十一月初旬であったため、足場の解体は年明けでよいとはいうものの、年末年始の休みがある上に、二月初旬には足場を解体したいという、少々タイトな日程でした。またこの年は例年にならない職人不足で悩まされているシーズンでもありました。

当初より天候には恵まれたものの、やはり職人の確保は厳しく、足場はかかったもののなかなか工事が進んでいかない状況でした。

「まあ、しょうがない。どこかで帳尻（ちようじり）を合わせればいい」
「多少の不便は仕方ない。ここは生活環境下とはいえ工事現場なのだから」と、どこかで施工側の都合を正当化している自分がいきました。

そうこうしているうちに十二月になり、ようやく職人の確保ができはじめ、それまでの遅れを巻き返すかのごとく工事は進んでいきました。

しかしながらバルコニーの使用期限や洗濯物の規制など、居住者様には相当のご迷惑をおかけする結果ともなっていました。

そんな時、一人の小さな少女からこんな依頼を受けました。

「おじちゃん、おウチのまどがあげられないからサントアさんがはいれないの。クリスマスにサントアさんはいれるかな？ はいれるようにしてね」

バルコニーの窓を塗装のために完全に養生した状態では、サントアさんが家に入れないだろうと彼女は指摘したのです。もちろん工事の遅れを指摘するものや、締め切った状態をわずらわしく思っただけの指摘ではなく、純粋な少女のお願いごとでした。

しかし、そこで初めて、自分たち施工側の都合のみで工事が進んでいることに気づかされ、私はハッとしました。誰のために工事を行っているのか、何を大切に工事を進めるべきなのか。

「大丈夫。おじちゃんに任せて。約束するから」

そう言いながら原点を思い出させてくれたこの小さな依頼者に感謝すらしめました。

もちろん、その少女との約束は無事果たしました。

「おじちゃん、サンタさんにオモチャもらったの！ おじちゃん、おやくそくまでもってくれてありがとう！」

思わず目頭が熱くなり、同時に深く何かを考えさせられました。

もちろん、すべての要望を叶えるべきなのかといえそうではないでしょう。企業である以上、利益追求のためのコスト削減や、作業の効率化などは必要不可欠です。しかしながらこういった居住者様の気持ちの上に工事が進行しているのも事実です。

「誰の何のための工事なのか」

忘れてはいけない原点なのではないかと感じました。

またそんな気持ちを忘れなければ、ちゃんと感謝をもらえる仕事であるとも思います。

工事は予定通りに竣工（しゅんこう）を迎えることができました。どの現場も無事終了し、引き渡し日を迎えられることは嬉しいことですが、この現場ではもう一つ嬉しいことがありました。

それは、約束をした少女から手紙をもらったことです。

「工事のおじちゃん、おうちをキレイにしてくれてありがとう」

しかも私の似顔絵入りです。

今でも手帳にはさみ、着工時や繁忙期に読み返すようにしています。かけがえのない宝物の一つです。



編・著者略歴

降旗 達生（ふるはた たつお）

NPO法人建設経営者倶楽部KKC理事長/ハタコンサルタント株式会社代表取締役

小学生の時に映画「黒部の太陽」を観て、困難に負けずにトンネルを掘り進む男たちの姿に憧れる。1983年大阪大学工学部土木工学科卒業後、株式会社熊谷組にてダム工事、トンネル工事、橋梁工事など大型工事に参画。

阪神淡路大震災にて故郷兵庫県神戸市の惨状を目の当たりにして開眼。技術コンサルタント業を始める。建設技術者研修4万人、現場指導1000件を超え、建設業界からの信頼が厚い。「がんばれ建設～建設業業績アップの秘訣～」は読者数12,000人、日本一の建設業向けメールマガジンとなっている。子供のなりたい仕事ベストテンに建設技術者を入れるための活動をしている。

著書に「受注に成功する！土木・建築の技術提案」(オーム社)、「施工で勝つ方法～現場代理人養成講座～」、「今すぐできる建設業の原価低減」(いずれも日経BP社)、「技術者の品格其の一、其の二」(ハタ教育出版)など。

「心温まる物語なんかないよ」

本書を編集するにあたり、約四〇〇名の方に『建設業で本当にあった心温まる物語』原稿執筆をお願いしました。現場監督、職人、建設会社の事務社員、建設業で働く方のご子息などの方々が対象です。そうすると決まって冒頭のようなことをおっしゃいます。

しかししばらく経つとニコッとされ、「そういえば一つだけあるなあ」と決まって言われます。

なかにはそのまま涙ぐむ方もいらっしゃいました。お父さんのこと、お子さんのこと、ともに工事現場で働いてきたお客様、仲間、職人さんのことを思い出されたのでしょう。そして、「あいつ今頃、どうしているかなあ」と言われたこともあります。

一人でも多くの方に人と建設のキズナを感じていただきたいというのが、本書作成のきっかけです。

建設物は無機質に見えますが、私は有機質にもなると思っています。建設業関係者の作品が、地球上に、そして人の心の中に、ずっと残ることを祈っています。

(おわりにより抜粋)

書籍版『建設業で本当にあった心温まる物語Ⅱ～人と建設とのキズナ～』

編・著	降旗 達生
制作	特定非営利活動法人建設経営者倶楽部KKC
発行	ハタ教育出版
定価	500円（税別） 74ページ



「書籍版」は下記ホームページからお買い求めいただけます。

◇NPO法人建設経営者倶楽部KKC URL:<http://kk-c.net/>

◇ハタ コンサルタント株式会社 URL:<http://www.hata-web.com/>

お問合せは**0120-926-810**まで